平成 26 年の全数把握対象疾患

平成 26 年の全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。なお、遡って把握できた過去の届出状況を一覧にして掲載する。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核 301 例の届出があり、昨年とほぼ同様であった。類型は、患者 226 例、無症状病原体保有者 64 例、疑似症患者 11 例であった。患者の病型は、肺結核が 174 例、その他の結核（結核性胸膜炎、リンパ節結核、腸結核、脳結核等）が 43 例、肺結核及びその他の結核が 9 例であった。全届出例の年齢階層は、10 歳未満 7 例、10 歳代 2 例、20 歳代 18 例、30 歳代 19 例、40 歳代 20 例、50 歳代 30 例、60 歳代 48 例、70 歳代 58 例、80 歳代 76 例、90 歳代 17 例、100 歳代 1 例で、80 歳代が最も多く、70 歳以上が全体の 50.1%を占めていた。別添で概要を記載する。

3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症 23 例、腸チフス 1 例の届出があった。

腸管出血性大腸菌感染症は、昨年よりわずかに減少した。類型は、患者 19 例、無症状病原体保有者が 4 例で、その年齢階層は、10 歳未満が 3 例、10 歳代が 4 例、20 歳代 9 例、30 歳代はなく、40 歳代 4 例、50 歳代 1 例、60 歳代 2 例で、昨年に比べると高齢者が少なかった。血清型・検出病原体は、O157 が 19 例（VT1&VT2 が7例、VT2 が 12 例）、O26 が 2 例（VT1 が 2 例）、O121 が 2 例(VT2 が 2 例)であった。感染経路としては、推定ではあるが経口感染が 16 例、接触感染が 1 例、不明が 6 例であった。経口感染が推定されているものには焼き肉の喫食歴の記載があるものが 9 例、うち 1 例は生肉を喫食していた。別添で概要を記載する。

腸チフスは 2011 年以降報告が無かったが、本年は 2 例報告があった。類型は 2 例とも患者で、30 歳代女性及び 50 歳代女性であった。1 名は医療関係者で、業務上チフス菌を取り扱ったとのこと。また、もう 1 名は、観光で来日した中国人で、感染推定地域はマレーシアとされている。

4. 四類感染症

A型肝炎 8 例、チクングニア 1 例、デング熱 3 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 11 例の届出があった。

A型肝炎は、例年 0～3 例の届出であったが、急増した。全国的にも 3 週以降急増し、ここ 10 年で最も多い年となった。奈良県でも 9～10 週だけで 3 例報告があり、例年と違う発生動向のため注視していた。検体が確保できた 17 週の報告患者から、全国で検出されている 2014 年 IA（広域型）が検出された。この 2014 年 IA（広域型）は、宮城県から鹿児島県の広範囲に同時期に検出され、解析領域での遺伝子配列がほぼ完全に同一という、非常に特異な特徴があり、また本株による症例は第7～11 週をピークとしており、このような流行の特徴から、おそらく限局

された地域で同一時期にこの 2014 年 IA（広域型）に汚染された食材などが短期間に全国規模で流通し、同一株による全国的な流行を発生させたものと推察されているが、原因については明らかになっていない。届出のあった 8 例の性別・年齢層は男性が 30 歳代 1 例、40 歳代 2 例、60 歳代 1 例、女性が 40 歳代 2 例、50 歳代及び 70 歳代 1 例ずつとなっている。黄疸を呈したのは 6 例、うち 3 例が肝肥大を伴っていた。推定感染経路は全員が経口感染で、カキの喫食歴が 2 名、マグロ・イカの塩辛喫食歴が 1 例であった。2014 年 IA（広域型）を検出した患者もカキの喫食歴があった。また海外が推定感染地域であるのが 2 例で、ラオスとフィリピンであった。なお、A型肝炎は 6 歳未満の小児では不顕性感染することが知られており、黄疸を呈するのは 10％程度とされる。患者発生時には周辺の小児の無症状病原体保有者の検索なども必要と思われる。

チクングニア熱は、7 月に 1 例報告があった。患者は、50 歳代男性で、感染推定地域はインドネシアとされている。

デング熱は 8 月・9 月・11 月に 1 例ずつ計 3 例報告があった。全て海外感染事例である。8 月の事例は 40 歳代男性で、推定感染地域はフィリピン、9 月の事例は 30 歳代女性で、同じくフィリピン、11 月の事例は 20 歳代男性で、推定感染地域はインドとされている。3 例とも、病型はデング熱型で、2 日以上続く発熱、発疹、血小板減少及び白血球減少を呈しており、特に 8 月の女性は、血小板が 100,000/mm^3 以下と記載されている。

平成 26 年には、約 70 年ぶりにデング熱の国内感染事例が発生した。東京都代々木公園等を感染地として、全国で 160 名の患者が報告された。デング熱やチクングニア熱は、本来は海外の感染症であり、海外で感染した人を吸血した蚊が他の人を刺すことで、感染が拡がる疾患である。また、デング熱ウイルスは人などの霊長類と蚊以外では増殖しないとされる。代々木公園には、イベントなどで海外からも含めて訪問者が多く、吸血対象として他の動物より人の方が多いという都会の公園の特徴から、感染が始まりまた拡がったとされている。ただし、本県でも海外渡航歴のあるデング熱患者は、毎年数例報告されており、その人を起点として感染が拡がることはあり得ることである。蚊対策（増やさない・刺されない）や特に感染地からの帰国者に対しての刺されない対策については、今後普及啓発が必要と考えている。

日本紅斑熱は、本県では初めての報告である。60 歳代男性で、発熱・発しん・肝機能異常を呈している。推定感染地域は、高知県とされている。

マラリア 1 例は、50 歳代男性で、病型は熱帯熱型であった。推定感染地域は、モザンビークとされている。

レジオネラ症 11 例の病型は肺炎型 10 例と、無症状病原体保有者 1 例で、男性が 7 例（40 歳代1例、50 歳代1例、60 歳代 4 例、70 歳代 1 例）女性が 4 例（50 歳代 1 例、80 歳代 3 例）となっている。推定感染経路は水系感染が 5 例、塵埃感染が 1 例（水系感染との重複）、不明が 6 例となっている。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢 15 例、ウイルス性肝炎 1 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5 例、

急性脳炎 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例、後天性免疫不全症候群 14 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 2 例、侵襲性肺炎球菌感染症 20 例、水痘（入院例）5 例、梅毒 16 例、破傷風 1 例、風しん 4 例及び麻しん 1 例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症 11 例、腸管外アメーバ症 4 例であった。その年齢階層は、男性が 30 歳代 2 例、40 歳代が 1 例、50 歳代が 2 例、60 歳代 5 例、70 歳代 2 例、80 歳代が 1 例、女性が 30 歳代 1 例、50 歳代1例であった。感染原因は推定であるが、経口感染が 5 名、性的接触 3 名、不明 7 例であった。推定感染地域は国外が 8 例あった。

ウイルス性肝炎は、20 歳代男性 1 例、B 型肝炎で、推定感染経路は性的接触であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、9 月から全数把握対象に追加された疾患である。患者は全て男性で、10 歳代 1 例、70 歳代 1 例、80 歳代 3 例であった。病原体検出部位としては、血液 2 例、中心静脈カテーテル 1 例、尿や喀痰が 2 例で、感染経路は以前からの保菌が 2 例、医療器具からが1例、不明が 2 例となっている。検出された菌種は、血液から検出された 2 例は *Enterobacter cloacae* 及び *E-coli*、尿から検出された 1 例は *E-coli* の記載があった。

急性脳炎は、1 月に 2 例、7 月に 1 例報告があった。病型は、1 月の 10 歳代女性がインフルエンザA型、1 月の 10 歳未満の男性がインフルエンザB型、7 月の 60 歳代男性がその他（ヘルペス）とされている。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例報告があった。3 例は、近年のうちでは多い。1 月に報告があったのは、60 歳代女性で血清群はA型、9 月に報告があったのは、70 歳代男性で血清群はβ溶血性、死亡までに到る臨床経過が非常に短かった旨の記載があった。11 月に報告があったのは、80 歳代男性で、血清群はA型であった。

後天性免疫不全症候群 14 例の病型は、AIDS6 例、無症候性キャリア 7 例、その他(急性 HIV 感染症)1 例であった。すべて男性で、20 歳代 2 例、30 歳代 8 例、40 歳代 2 例、50 歳代及び 60 歳代がそれぞれ 1 例であった。感染原因・感染経路は、性的接触 11 例（異性間 3 例、同性間 9 例（重複有り））、不明 3 例であった。無症候性キャリアのうち 1 例は、梅毒の無症状病原体保有者と重複している。別添で概要を記載する。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、10 歳未満の男性 1 例と 80 歳代男性の 2 例である。10 歳未満男性にはヒブワクチン接種歴が 4 回有るとのことであった。80 歳代男性には、ワクチン接種歴は無かった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、昨年より増加した。男性 11 例、女性 9 例で、10 歳未満 3 例、40 歳代 2 例、50 歳代 1 例、60 歳代 5 例、70 歳代 4 例、80 歳代 3 例、90 歳代 2 例であった。10 歳未満の 2 名には、ワクチン接種歴があった。感染経路は、飛沫感染 7 例、垂直感染 1 例、誤嚥 1 例、不明が 11 例であった。

水痘（入院例に限る）は、9 月から全数把握対象に追加された疾患である。水痘は、元々小児科定点把握対象疾患であったため、成人の水痘は把握できず、院内感染などの重症例も把握できていなかった。このため水痘ワクチンが平成 26 年 10 月から定期接種となるのに先立

ち、サーベイランス体制の変更となった。ただし、初感染例のみが届出対象である。届出のあった病型は全て臨床診断例であった。性別、年齢階層は、男性が 10 歳未満 1 例、40 歳代 1 例、女性が 10 歳未満 1 例、30 歳代1例、50 歳代 1 例であった。10 歳未満の 2 例にはワクチン接種歴が無かった。また、50 歳代と 10 歳未満の女性の 2 例は、院内感染（他疾患で入院中の感染）とされている。

梅毒は 16 例報告があった。これは過去最多で急増している。平成 26 年には全国的にも梅毒の報告が増加した。これは特に男性同性愛者の中で、HIV 感染症および梅毒の流行がみられているためとされ、感染症発生動向調査による国内の流行状況は、梅毒感染者の約 8 割を男性が占め、男性感染者の多くが同性間の性交渉による感染であることが明らかにされている。本県でも、男性 12 例、女性 4 例と男性が多かった。また患者の年齢層は、男性 10 歳代（19 歳）1 例、20 歳代 4 例、30 歳代 5 例、40 歳代及び 60 歳代 1 例ずつ、女性が 10 歳代（16 歳）1 例、20 歳代 3 例となっている。患者の病型は、早期顕症梅毒 12 例（Ⅰ期 3 例、Ⅱ期 9 例）、無症候（無症状病原体保有者）4 例であった。感染経路は性的接触が 14 例（同性間 3 例、異性間 9 例、不明 2 例）、不明が 2 例となっている。

破傷風は昨年に続きの報告である。60 歳代男性 1 例で、臨床決定されている。足指を受傷したと記載がある。

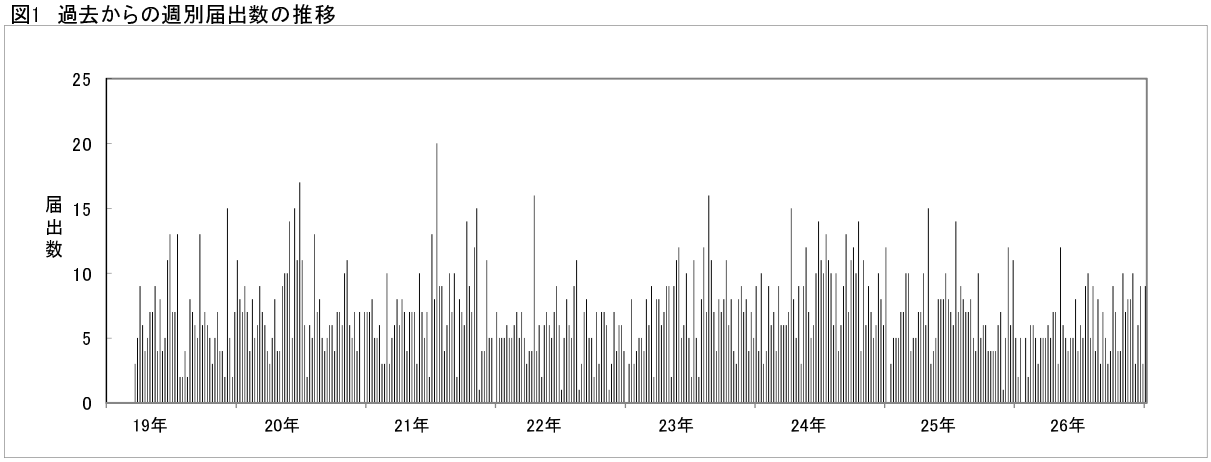
風しんは 4 例と前年に比べて大きく減少した。4 月 1 例、5 月 2 例、6 月 1 例の報告があった。患者の病型は、臨床診断例 2 例、検査診断例 2 例で、男性が 10 歳代 2 例、30 歳代 1 例、女性が 20 歳代 1 例となっている。ワクチン接種歴の有りが 2 例、無しが 1 例、不明が 1 例であった。

麻しんは、平成 23 年以来の報告であった。これは、平成 23 年度から始まった麻しん対策推進事業やその後の麻しんに関する特定感染症予防指針により遺伝子検査による検査診断が徹底されたため、臨床診断例での報告が無かったためである。平成 26 年に報告があった 1 例は、渡航歴のある 20 歳代の男性で、平成 26 年 3 月 15 日～20 日にフィリピンセブ島に渡航し、3 月 28 日発熱で発病、4 月 2 日に発しんが出現している。保健研究センターに搬入された検体（咽頭ぬぐい液、血液、尿）すべてから B3 型遺伝子が検出された。

結核

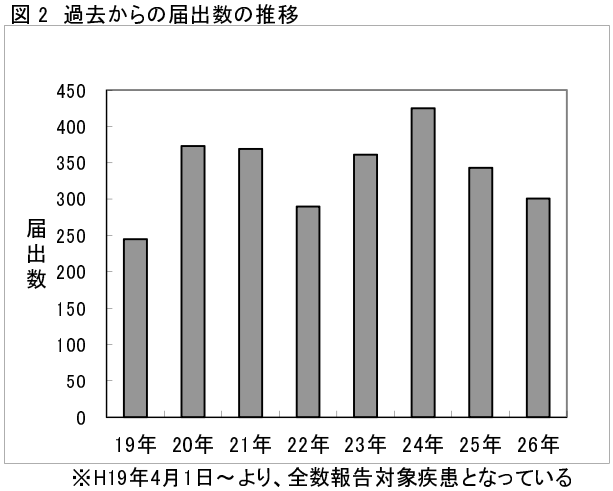
別添

図1　過去からの週別届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図 2　過去からの届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図 5　週別届出数

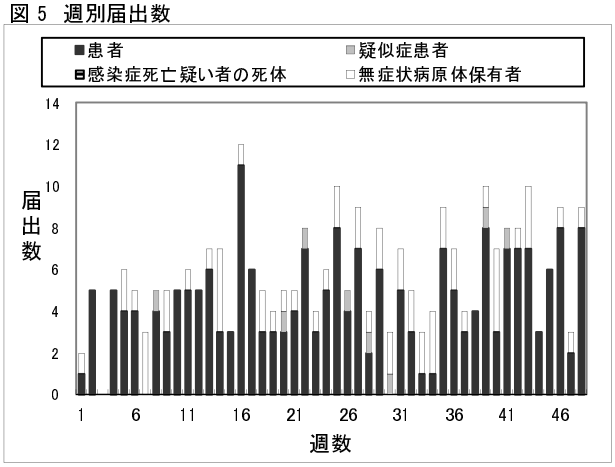


図 3　年齢別届出数

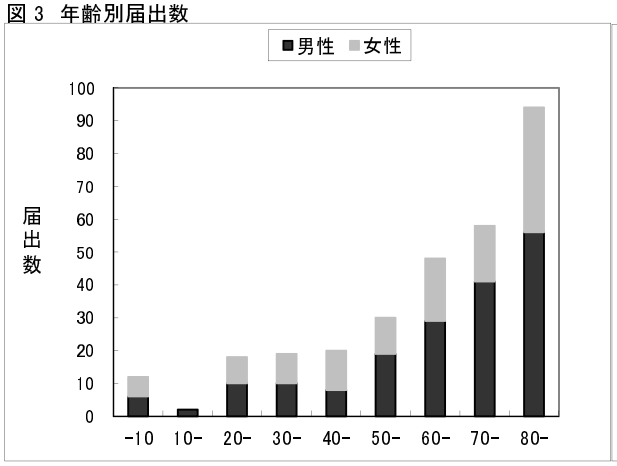


図 6　病型別

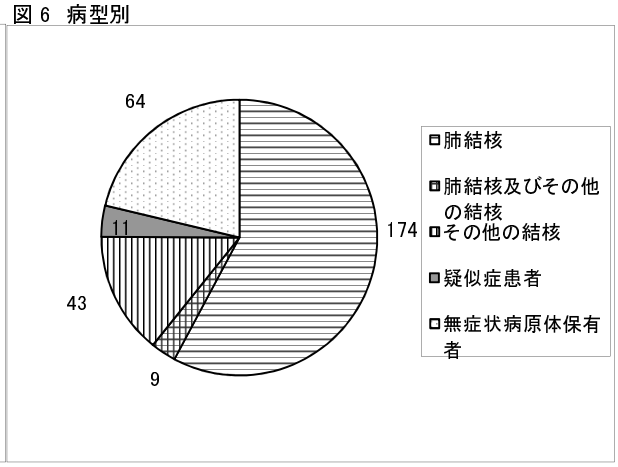
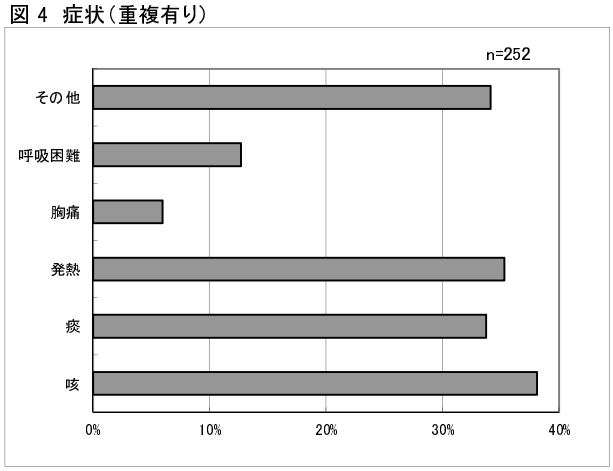


図 4　症状（重複有り）



その他

感染地域（推定含む）
　県内：206例
　国内（県外・不詳）：93例
　海外：2例

腸管出血性大腸菌感染症

別添

図1　過去からの週別届出数の推移

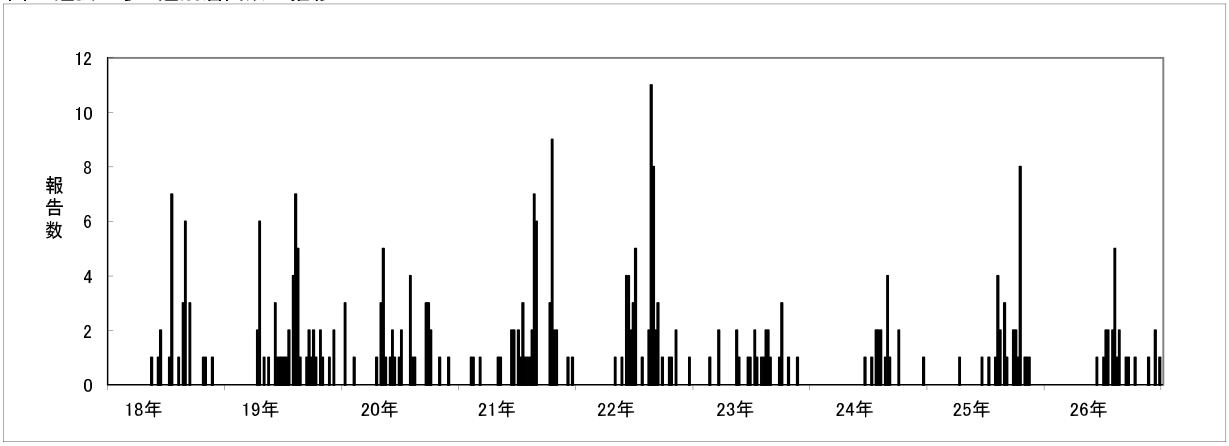


図2　過去からの届出数の推移

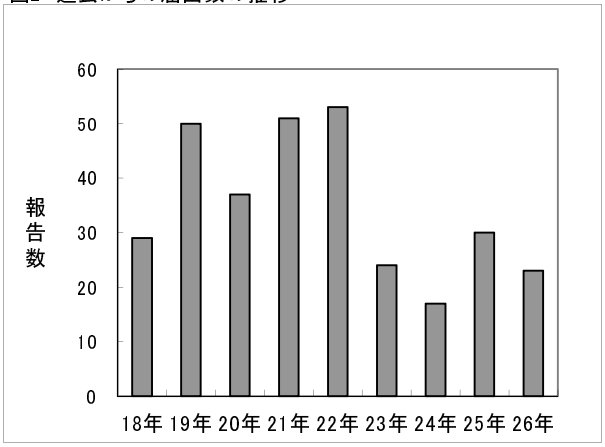


図5　週別届出数

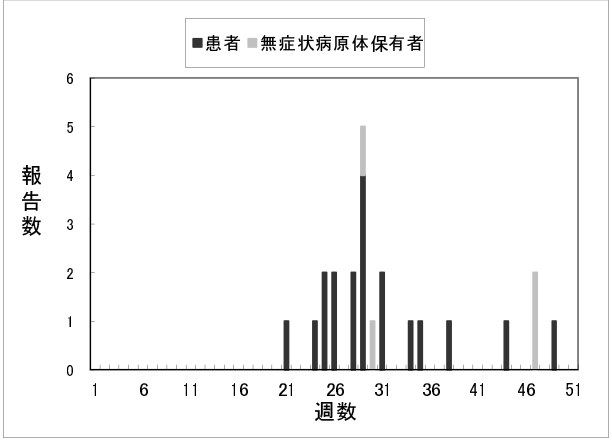


図3　年齢別届出数

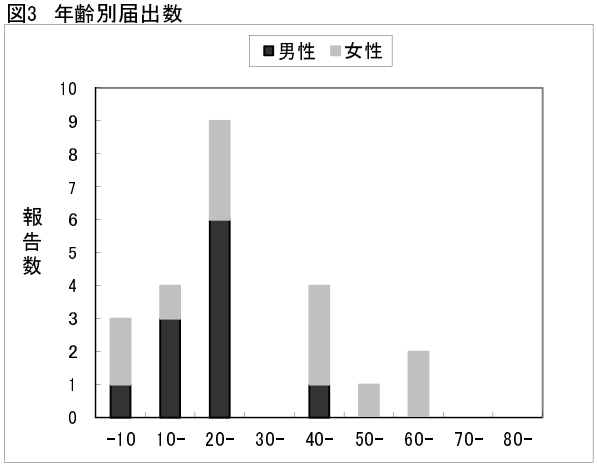


図6　血清型別患者報告数

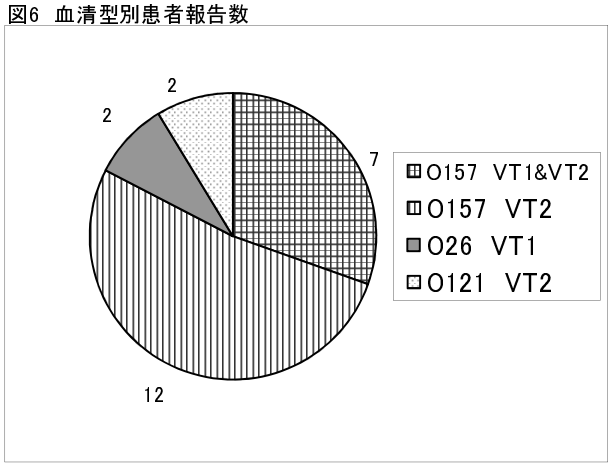
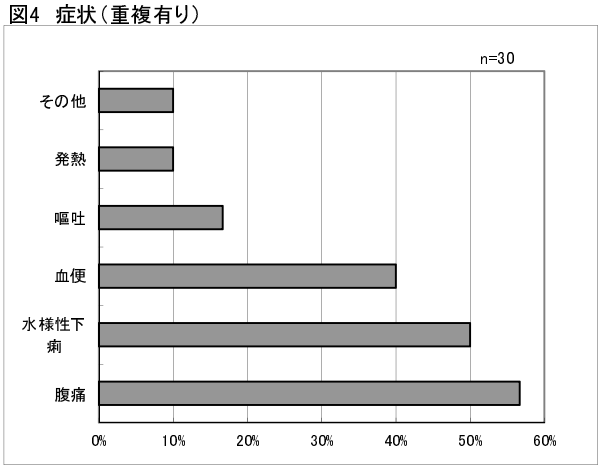


図4　症状（重複有り）



その他

感染地域（推定を含む）
　県内　15例
　県外　 6例
　不明　 2例

感染経路（推定含む）
　経口感染　16例（うち9名に焼き肉あり、またうち1名に生食、1名に加熱不十分の記載あり）
　接触感染　 1例
　不明　　 6例（うち12月登録の兄妹は、父親が11月に陽性との記載あり。）

その他の症状：手足のしびれ、軟便、全身倦怠感

後天性免疫不全症候群

別添

図1　過去からの週別報告数の推移

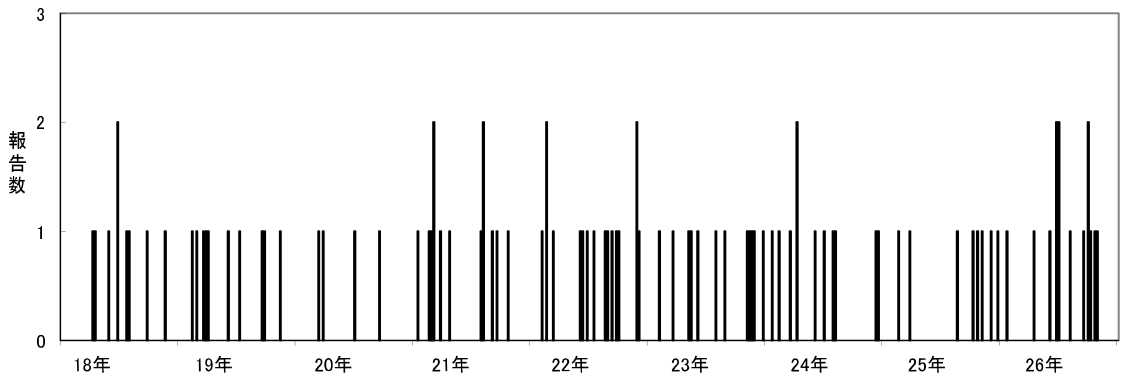


図2　過去からの届出数の推移

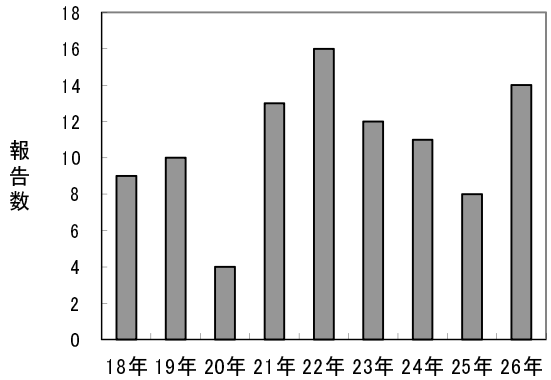


図5　週別届出数

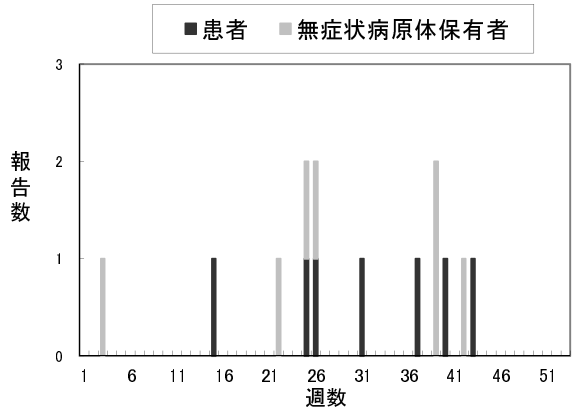


図3　年齢別届出数

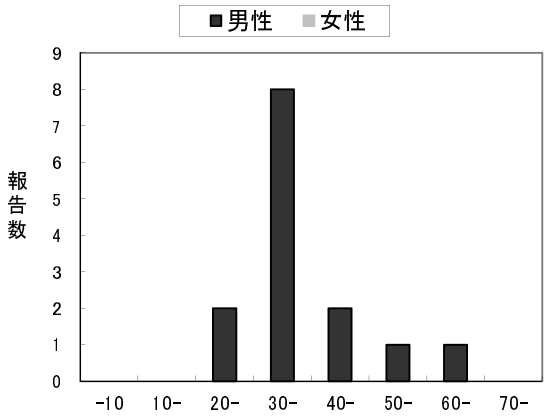


図6　病型別

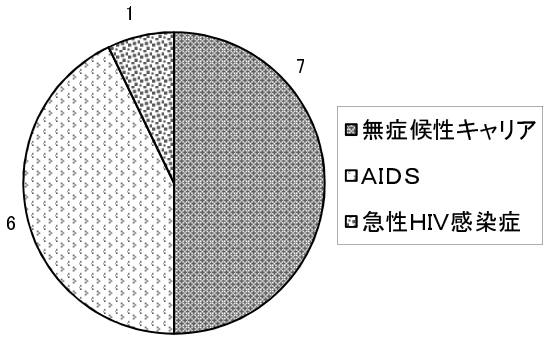
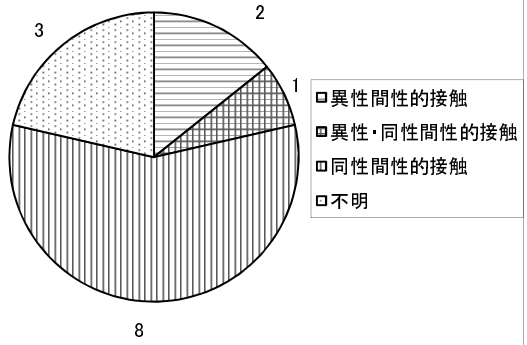


図4　感染経路



概要

感染地域（推定含む）
　国内　13例
　不明　　1例

感染地域不明の1例は、梅毒にも登録有り

AIDSと診断した指標疾患(n=6)
　ニューモシスティス肺炎：5
　活動性結核（肺結核又は肺外結核）：1

表1　全数把握対象疾患報告状況

	調査年 / 疾患名	平成18年(2006年)		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
一類	エボラ出血熱												
	クリミア・コンゴ出血熱												
	痘そう												
	南米出血熱												
	ペスト												
	マールブルグ病												
	ラッサ熱												
二類	急性灰白髄炎						2				2		1
	結核			247	21,946	372	28,419	371	26,996	287	26,866	361	31,483
	ジフテリア												
	重症急性呼吸器症候群												
	鳥インフルエンザ（H5N1）												
三類	コレラ		37		13		45		16		11		12
	細菌性赤痢	3	373	2	452		320	2	181	2	235		300
	腸管出血性大腸菌感染症	29	3,819	50	4,617	38	4,322	50	3,889	53	4,134	24	3,940
	腸チフス	1	58		47	1	57		29	1	32		21
	パラチフス	1	22	1	22		27		27		21		23
四類	E型肝炎		46	2	56		43		56		66		61
	ウエストナイル熱												
	A型肝炎	3	224	1	157	3	170	1	115	2	347		176
	エキノコックス症		13		25		22		27		17		20
	黄熱												
	オウム病		16		29		9	1	21		11		12
	オムスク出血熱												
	回帰熱									1	1		
	キャサヌル森林病												
	Q熱		2		7		3		2		2		1
	狂犬病		2										
	コクシジオイデス症		2		3		2		2		1		2
	サル痘												
	重症熱性血小板減少症候群												
	腎症候性出血熱												
	西部ウマ脳炎												
	ダニ媒介脳炎												
	炭疽												
	チクングニア熱												10
	つつが虫病		397		382		442		465	2	407		462
	デング熱		50	1	89		104		93	4	244		113
	東部ウマ脳炎												
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)												
	ニパウイルス感染症												
	日本紅斑熱		49		98		132		132		132		190
	日本脳炎		7		10		3		3		4		9
	ハンタウイルス肺症候群												
	Bウイルス病												
	鼻疽												
	ブルセラ症		4		1		4		2		2		2
	ベネズエラウマ脳炎												
	ヘンドラウイルス感染症												
	発しんチフス												
	ボツリヌス症		2		3		2				1		6
	マラリア		54		52		56		56		73		78
	野兎病						5						
	ライム病		12		11		5		9		11		9
	リッサウイルス感染症												
	リフトバレー熱												
	類鼻疽										4		3
	レジオネラ症	3	434	3	668	5	893	4	717	1	751	9	818
	レプトスピラ症		24		35		42		16	1	22		26
	ロッキー山紅斑熱												
五類	アメーバ赤痢	6	598	10	801	11	872	9	786	11	843	11	814
	ウイルス性肝炎 B型	6	188	2	199		179		178	1	174		200
	ウイルス性肝炎 C型	2	37	1	34	2	53	1	40		39		36
	ウイルス性肝炎 D型												
	ウイルス性肝炎 その他		4		4	1	9		5		7		14
	ウイルス性肝炎 不明										1		
	ウイルス性肝炎 （再掲：合計）	8	229	3	237	3	241	1	223	1	221		250
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症												
	急性脳炎		93		228		190	1	526	1	242		258
	クリプトスポリジウム症		15		6		10		17		16		8
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	140		157	2	152		142	3	172	1	138
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	78	1	95		113	4	103		122	1	197
	後天性免疫不全症候群	9	1,058	10	1,493	4	1,568	13	1,446	16	1,553	12	1,535
	ジアルジア症	3	76	3	53		76	1	70		77	1	65
	侵襲性インフルエンザ菌感染症												
	侵襲性髄膜炎菌感染症												
	侵襲性肺炎球菌感染症												
	水痘（入院例）												
	先天性風しん症候群								2				1
	梅毒	2	505	3	719	1	839	2	691	3	621	6	827
	播種性クリプトコックス症												
	破傷風		108	1	89		123		113		106		118
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染												
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		69	1	84		80		116	1	120		73
	風しん					2	303	2	147		87	1	378
	麻しん					12	11,015	3	732	3	447	2	439
	薬剤耐性アシネトバクター感染症												
	髄膜炎菌性髄膜炎		9		17		10		10		7		12
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)							305	12,654				
指定感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）												
	中東呼吸器症候群												

表1　全数把握対象疾患報告状況

	調査年 / 疾患名	平成24年(2012年)		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎				1			
	結核	424	29,317	343	27,052	301	26,614	
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群							
	鳥インフルエンザ（H5N1）							
三類	コレラ		3		4		5	
	細菌性赤痢	5	214	1	143		158	
	腸管出血性大腸菌感染症	17	3,768	30	4,044	23	4,149	
	腸チフス		36		65	2	53	
	パラチフス		24		50		16	
四類	E型肝炎		121		127		154	
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		157		128	8	433	
	エキノコックス症		17		20		28	
	黄熱							
	オウム病		8		6		8	
	オムスク出血熱							
	回帰熱		1		1		1	
	キャサヌル森林病							
	Q熱		1		6		1	
	狂犬病							
	コクシジオイデス症		2		4		2	
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群				48		61	
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱		10	1	14	1	16	
	つつが虫病	1	436		344		320	
	デング熱	5	221	2	249	3	341	
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱		171		175	1	240	
	日本脳炎		2		9		2	
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症				2		10	
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症		3				1	
	マラリア	1	72	2	47	1	60	
	野兎病						1	
	ライム病		12	1	20		17	
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽				4			
	レジオネラ症	8	899	12	1,124	11	1,246	
	レプトスピラ症		30		29		48	
	ロッキー山紅斑熱							
五類	アメーバ赤痢	6	932	8	1,047	15	1,135	
	ウイルス性肝炎 B型		186	2	236	1	190	
	ウイルス性肝炎 C型	1	38		30		27	
	ウイルス性肝炎 D型							
	ウイルス性肝炎 その他		12		20		11	
	ウイルス性肝炎 不明							
	ウイルス性肝炎 （再掲：合計）	1	236	2	286	1	228	
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症					5	321	
	急性脳炎		371		369	3	469	
	クリプトスポリジウム症		6		25		98	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	185	8	203		179	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	242	1	203	3	280	
	後天性免疫不全症候群	11	1,438	8	1,586	14	1,538	
	ジアルジア症		72	1	82		68	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症				108	2	200	
	侵襲性髄膜炎菌感染症				23		37	
	侵襲性肺炎球菌感染症			9	1,001	20	1,825	
	水痘（入院例）					5	142	
	先天性風しん症候群		4		32		9	
	梅毒	6	875	6	1,228	16	1,683	
	播種性クリプトコックス症						36	
	破傷風		118	2	128	1	126	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		91		55		57	
	風しん	18	2,386	180	14,344	5	320	
	麻しん		283		229	1	462	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症						15	
	髄膜炎菌性髄膜炎	1	15		2			H25.4.1からは、侵襲性髄膜炎菌感染症として届出
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)							全数把握対象としたのは、H21.4.26～7.27まで
指定感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）							H25.5.6から指定感染症　H27.1.27からは二類感染症
	中東呼吸器症候群							H26.7.26から指定感染症　H27.1.27からは二類感染症

ゼロ値は表示していない